

平成30年度第2回パートナー県政推進会議の開催結果について

平成30年12月
県民課

パートナー県政推進会議において、関係人口に着目した鳥取県の元気づくりについて意見交換を行いました。

1 日時等

- (1) 日時 平成30年11月23日（金）午後3時から5時まで
- (2) 場所 ホテルニューオータニ鳥取
- (3) 出席者 委員13名、知事、元気づくり総本部長ほか
- (4) テーマ 「鳥取県の元気づくりの発展」～関係人口に着目した鳥取県の元気づくり～

2 主な意見等

＜関係人口の拡大のためのきっかけ、地元の魅力発信等＞

- 東京での若者交流会で鳥取の食材を用いた料理を食べていただいたところ、参加した東京在住の人が早速、鳥取の店を訪ねて来てくれた。関係人口には、行きたい場所、自分の居場所のようなどころがあることが重要であり、そういう場所を介して人と人は繋がっていく。
- 関係人口増加は、日本人に限る必要はないのではないか。海外にも日本の田舎が魅力的に映る人もいる。また、若い人も早いうちからグローバルな環境に慣れることにもなり、同時に鳥取の魅力にも気づくことになる。
- ジオパーク関連の研修会等で、都会から講師を招き実際に山陰海岸を見ていただくと、後日SNS等でPRしてくれる。こうしたことで関係人口が広がっていくことになる。
- 大学には県外出身者が多く卒業後は地元に戻る人が多いが、鳥取県に縁を持った人が出ていくということでプラスに考えられる。大学生をもっと活用してほしい。
- ふるさと納税は品物を返礼することが主流だが、鳥取に来ていただいてシュノーケリングや森林セラピー等鳥取を実感する体験型観光メニューをもっと増やしてほしい。
- 高校生による鳥取県の魅力発信は県内にとどまりがちなので県外にも広げていきたい。高校生も情報発信をやってほしい。
- 寮の確保ができれば中高生アスリートを県外から集めることができる。その上で、集めた生徒を大学進学で県外に出さないように県内大学で育成する仕組みが必要である。

[知事]

- ・行政だけでは、関係人口は増加しない、人と人の御縁から繋がっていく。県民の方々の協力の中で取組を進めていく必要がある。高校生や大学生、若い方による情報発信やPRのサポートはできるような気がする。何かプロジェクトを考えたい。
- ・ふるさと納税への返礼として体験型のメニューも増えてきているが、市町村にも呼びかけ充実を図りたい。

3 今後の予定

会議でいただいた意見等について現状等把握し、県施策等への反映を検討する。

＜参考＞

1 パートナー県政推進会議について

「県政は県民のパートナー・地域のパートナー」であることを原点として制定した鳥取県民参画基本条例の基本理念に基づき、県政への県民意見の反映や県民と県政との協働のあり方について議論を深め、施策の改善を検討するため、平成25年に設置された。



2 委員について

[全18名]

氏名	所属等	備考
今井 正和 (いまい まさかず)	公立鳥取環境大学 副学長	座長
加持谷 典範 (かじたに みちのり)	江府町老人クラブ連合会若手委員会 委員長	
川口 博樹 (かわぐち ひろき)	山陰松島遊覧(株) 代表取締役	
坂本 桃子 (さかもと ももこ)	鳥取大学地域学部 2年生	
柴田 梨央 (しばた りお)	鳥取大学地域学部 2年生	
杉村 正男 (すぎむら まさお)	鳥取県ボート協会 副会長	
薛 幸夫 (そる へんぶ)	在日大韓国民団鳥取地方本部 常任顧問	
高虫 秀樹 (たかむし ひでき)	高虫農場 代表	
瀧山 佳世 (たきやま かよ)	とっとり暮らしアドバイザー	
村上 達彦 (むらかみ たつひこ)	青翔開智高校 2年生	
藪 恵美子 (やぶ えみこ)	倉吉東高校 2年生	
矢吹 勇斗 (やぶき はやと)	倉吉東高校 2年生	
山内 有二 (やまうち ゆうじ)	鳥取県商工会青年部連合会 会長	
河上 睦子 (かわかみ むつこ)	日南町福栄女性消防隊 隊長	欠席
福井 靖子 (ふくい やすこ)	とっとり県消費者の会 会長	
藤澤 幸恵 (ふじさわ ゆきえ)	NPO法人えがおサポート 代表理事	
本池 利広 (もといけ としひろ)	地域消費生活サポーター	
山本 伊都子 (やまもと いつこ)	琴浦まちづくりネットワーク 幹事	